

社団法人 東洋音楽学会 **会報** 第57号

発行(社)東洋音楽学会〔事務所〕〒110-0001 東京都台東区谷中5-9-25 第2八光ハウス201号

TEL.03-3823-5173 FAX.03-3823-5174 E-mail LEN03210@nifty.ne.jp

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/tog/>

目次

第53回大会レポート……………1	会員異動……………6
会長就任の挨拶……………5	図書・資料等の受贈……………8
通常理事会・総会議決事項のお知らせ……………5	新刊書籍……………8
会費納入について特段のお願い……………6	新発売視聴覚資料……………10
金城厚氏が沖縄研究奨励賞を受賞……………6	編集後記……………11
月溪恒子氏に、第14回小泉文夫音楽賞授賞決定……………6	第33回通常総会議事録(抄)・添付書類……………12
第20回田邊賞アンケートのお願い……………6	

第53回大会レポート

(2002年10月12日~13日/東京藝術大学)

第1日(10月12日)

小展観、グンデル・ワヤン演奏、懇親会、第19回田邊尚雄賞受賞祝賀会

大会第一日目、公開講演会と併行する小展観では、唱歌掛図初編(明治15年4月刊)をはじめ、音楽取調掛時代の資料(東京藝術大学附属図書館蔵)8点が出陳された(詳細は大会プログラム10頁参照。舞楽屏風は都合により出陳せず)。塚原康子氏の講演でも具体的な言及があり、貴重な資料に接する好機となったと思う。開会式に先立ち、植山視保子、鍋島真理、増野亜子、皆川厚一4氏によるグンデル・ワヤンが演奏され、ひとときわ精彩をはなつ楽の音がはれやかに大会の開幕をつけた。同日夜、田邊賞受賞祝賀会をかねた懇親会には約50名がつどった。安田文吉氏の司会進行のもと、受賞者の青柳隆志氏から、恩師樋口昭氏とのエピソードが感謝をこめて披露され、また朗詠研究の充実に向けた抱負が語られた。東京藝術大学大学院の横山佳世子氏(箏)、堀口彩衣子氏(鼓)による演奏「序の舞」も、会場の賑わいに一段と華をそえた。

(尾高暁子)

公開講演会「近代日本における美術・音楽の生成」

佐藤道信・塚原康子

公開講演会は本大会を担当した東京藝術大学にふさわしく、その歴史と現在を俯瞰するテーマが設定されたと言える。そして美術と音楽を並列したかたちで見渡すことにより、東京藝術大学という装置を通じた近代への視野が示されたように思われる。

まず、佐藤道信氏が明治における美術という用語の成立から戦後、現代に至る流れを、制度的問題を軸にして社会的環境の中で明らかにした。佐藤氏は「美術」概念成立の特徴を、1.西洋移植の翻訳概念、2.官製用語、3.内容規定は曖昧、4.概念・存在と機構・組織の相互依存・保障関係、5.本質的にアカデミズム、と示し、また、美術学校で扱うものを「美術」とすることでそれ以外の学校との差異が生じ、「美術」が国家の経済戦略や文化戦略の対象として機能する、といったジャンルのヒエラルキーの構造に美術の近代をみる。そして戦後は文化消費先導の「美術」の社会構造が成立した、と指摘した。

次に塚原康子氏は明治を中心に西洋と日本という区別をなくして次の4点から捉えた。1.音楽に関わる行政、管轄官庁の問題、2.音楽取調掛の役割、3.日本音楽史の形成、4.音楽をめぐる対外関係、国際交流、である。塚原氏は国家という単位で音楽をみたときに、専門家が音楽学校だけでなく、宮内省管轄の楽部と陸海軍省管轄の軍楽隊によっても

生み出されていたという制度的枠組みを示し、そうした中で音楽取調掛は唱歌教育の実施と人材育成の役割を担っていたこと、そして明治以前はまとめて捉えられることのなかった「音楽」という概念が music に対応されることで、日本音楽史が形成したことを指摘した。

美術と音楽はたしかに比較しがたいが、今回、日本の明治期という洋の東西の接点に焦点を合わせることで、官立の学校という国家の制度を共通の基盤にして、日本近代の美術と音楽が社会制度と深く関わることによって生成していた様相が明らかになった、と言えよう。

(永原恵三)

第 2 日 (10 月 13 日)

研究発表 A 1

「療法的視点からとらえた日本音楽の拍の意識」

松本晴子

日本音楽を聴取する際の拍の意識と癒しの関連を検討することを目的とした発表。大学生を被験者として日本民謡の中から拍節が感じられない曲、拍節の感じられる曲を各 1 曲ずつ選び、前者についてはさらに音響分析によって間の取り方が大きく異なった 3 人の演唱を選んで、それぞれの曲を聴いた後に呼吸数を計ると共に、感じたことを記述させるという方法が取られた。その結果として、間の取り方によって聴き手の呼吸を落ち着かせ癒しの効果をもたらす、拍節の感じられない歌は好き嫌いを越え心理的にリラックスさせ安定させる効果があるなどの点が示されたが、研究方法自体に問題があるという指摘が会場から数多くあげられ、司会者の牧野英一郎氏は、未開拓な分野に挑戦した点は認めるが、測定や音響分析などで癒しという心理的な面を語ろうとすること自体に問題が多いとした。発表者も認めていたように未だ問題提起の段階の発表であり、今後の本格的な研究の展開が望まれる。

(加藤富美子)

「石見神楽における八調子の成立とその音楽的特徴」

藤原宏夫

先行研究ではすべて八調子で演じられるとされてきた石見神楽について、神楽の当事者たちへの聞き取り調査から、六調子と八調子による演目が混在しているという認識を突き止め、それをふまえて、歴史的経緯の概観ならびに六調子と八調子の音楽的特徴の比較を通して、石見神楽で八調子が成立してきた経緯を解明することを試みた研究。明治の一時期、神職舞禁止令にともなった動きから八調子神楽が誕生したとし、また六調子と八調子が混在すると認識された演目《恵比須》における神囃子と鬼囃子のリズムパターンの比較を通し

て、石見神楽の八調子の基本的なリズムパターンは六調子を踏襲したものであることがわかったとした。会場では、リズムパターンの分析方法や六、八という数字の示すものなどについて、各地の神楽研究もふまえて活発な討論が行われたが、発表者が今後の展望として述べたように、神楽の歴史の変遷を音楽的な側面から解明する一つの試みとして、今後の神楽研究に大いに生かされるべき研究成果となると感じた。

(加藤富美子)

研究発表 A 2

研究発表 A 2 は、文献研究の発表 2 件と曲の分析に関する発表 1 件でいずれも堅実な研究に基づく発表であった。

「『楽書要録』の伝本に関する調査報告」

高瀬澄子

高瀬澄子氏の発表は、羽塚啓明氏以来ほとんど研究が進んでいない『楽書要録』の伝本の現存状況を調査し、その結果を報告したものであった。羽塚氏が行った研究は周知のとおり『東洋音楽研究』2-3・4 (1940-42 年) に「楽書要録解説」「校異楽書要録」として掲載されているが、これらはすでに 60 年以上も前のものである。高瀬氏は羽塚氏の成果を継承し『楽書要録』の研究を進展させるには、伝本の再調査が不可欠とする。そして羽塚氏参照の伝本の現在の状況の詳しい調査報告、羽塚氏が参照しなかった新たな伝本 (立命館大学西園寺文庫所蔵) の紹介などがあった。『楽書要録』は日本の音楽理論や思想の形成を考えるにあたって基本となる文献でありながら十分な研究がなされていないのが現状である。今後の研究の進展に期待したい。なお、発表終了後の質疑にもあったが、『楽書要録』は諸書に逸文が見られ、その中には現存部分と異なる内容を伝えているものもある。逸文については未だ羽塚氏の成果の範囲を超えていないとのことであったが、今後、逸文の広範な蒐集、可能なかぎりの原形の復元なども課題となろう。

(遠藤徹)

「江戸期における一噌流能管の唱歌付考

記譜法体系の分析から」 森田都紀

森田都紀氏の発表は、江戸初期の能管唱歌付『聞書並笛集』(大蔵虎明自筆の伝書) に焦点をあて、詳細な分析にもとづき本書の性格を考察するものであった。本書は、これまで漠然と一噌流の伝書であろうといわれてきたが、森田氏は成立年代の近い一噌流系の笛伝書との詳細な比較を踏まえて具体的な内容の考証を行った。その結果、概ね一噌流系笛伝書と一致が見られるため一噌流と考えて良いと思われること、しかし、一部には個人差や時代差とは思えないほどの相違も見

られ、この部分をどのように解釈するかが問題として残ることなどの考えが示された。能管の流儀の相違が形成された江戸初期までの時期は、能管の技法の確立の問題とも相俟って重要な位置を占めている。今回の発表は『聞書並笛集』一書に限ったものであったが、より多くの譜本を検討し、軌跡を跡付ける作業を今後期待したい。(遠藤徹)

「光崎検校の手事物における三弦と箏の合奏法」

福田千絵

前記 2 者の発表が、今後の研究に向けての言わばスタートラインを示したものであったのに対し、福田氏の発表は提出済みの博士論文にもとづく完成度の高いもので、光崎検校の手事物について、音楽分析から光崎の三弦と箏の合奏法の特徴を明らかにし、光崎の作曲姿勢を考察するものであった。発表は音楽分析の部分に焦点があてられ、光崎の手事物の現行曲 7 曲から、箏の作曲者が明らかかな 5 曲を対象に、成立年代によって A 群、B 群の 2 群に分けて分析結果が示された。その結果、B 群では A 群より三弦と箏の関係が複雑、多様になっていること、こうした傾向は一人の作曲者によってなされたためと考えられるなどの見解が示された。発表終了後、光崎の作品の楽譜について等の質疑応答がなされた。

(遠藤徹)

研究発表 B 1

「イメージ上で鳴り響くうた - イラン伝統音楽における

読譜行為を通して」 谷正人

谷氏の発表は、イラン音楽の本質であるとされる「うた」(アーヴァーズ)が器楽の学習や演奏にもつ中心性(規定性)に関する考察であった。イラン音楽において器楽を学習する際に用いられる楽譜を読むには音価の相対性などに関する「約束事」を知る必要があり、その知識は「うた」特にペルシア古典詩の韻律に関する知識と通底している。それ故に読譜上の「約束事」は、器楽演奏を根底から支えるような「イメージ上で鳴り響くうた」が存在することを示し、イラン伝統音楽における「うた」の中心性を例証しようと主張した。谷氏の着眼点は自己の学習・演奏体験に基づくと考えられ貴重であるが、「うた = 本質」という前提から出発してその例証を行う論の進め方には因果関係の循環が若干みられた。また、「うた」が器楽演奏にとって決定的に重要ならば、その系統的な学習が何故器楽学習に組み込まれていないのかという疑問が残った。(寺田吉孝)

「ユダヤ宗教歌(ピユート)におけるコントラファクトゥム

- オリент系ユダヤコミュニティにおける

アラブ世俗歌旋律の使用 - 」 屋山久美子

屋山氏の発表は、ユダヤ宗教歌における世俗歌の流用形態(コントラファクトゥム)に焦点をあて、その歴史を概観した上で具体例をあげて実態を解説し、さらにこの広く実践されている技法に対する宗教界からの反発に言及したものである。アラビア語やトルコ語などの世俗歌の旋律に、宗教的コンテキストでの演奏に適した意味をもつヘブライ語歌詞を新たにつける際、元の歌詞の音に類似したヘブライ語の言葉を選ぶという興味深い技法が紹介された。しかし、本歌の世俗性がどのように喚起されるかという問題や、世俗歌の旋律を宗教歌のコンテキストに持ち込む方向性に関して、ユダヤにおける「世俗」と「宗教」の緊張関係の特質・歴史性に留意しながらより本質的な考察が必要であるように思われた。

(寺田吉孝)

研究発表 B 2

このセッションでは東アジアにおける音楽の諸相とその変遷が取り上げられた。興味深い事例とともに新たな知見が紹介され、いずれも有意義な発表だった。司会は櫻井哲男氏。

「鉦鼓架の起源と変遷」

畦地啓司

雅楽や仏教音楽で使用される打楽器「鉦鼓」を支える「架」についての考察。すでに発表者は「鉦鼓と鉦鼓架の起源について」と題する論考を著している(『東洋音楽研究』第 67 号: 81-85)。それに引き続きここでは「鉦鼓架」をさらに詳しく研究した成果が報告された。発表の前半では、その起源を文献・絵画の資料/史料に尋ね「(しゅんきょ)」と呼ばれる器具が鉦鼓架に先行するものであることを論証。後半は、鉦鼓架に表現された文様を検討・解釈するとともに、その背景となる思想を主としてパルメット文様に焦点を当てて架の形態の変遷とともに辿ろうとするものであった。広範な探索は、時間の制約もあり今回の発表の枠では十分に論じきれなかったのが残念である。また機材の不調で、準備された写真などは会場を回覧することとなった。画像を投影しつつ解説を加えることにより、理解が容易になり説得力も大きくなったであろうと惜まれる。(瀬山徹)

「解放後の韓国における「大吹打」の復興」

植村幸生

朝鮮時代の軍楽「大吹打(テチュイタ)」が韓国で 1960 年代に突然復活をしたのはなぜか? その背景を探るこの発表は、韓国ナショナリズムによって創出された伝統という観点からの考察である。復興の経緯を追い、関わりの深い演奏家を検

証し、現状をソウル・オリンピック開会式などでのVTRを交えて紹介するのが前段。それを受けての考察では、大吹打は朴正熙軍事政権によって創出されたものとの推論が提出された。発表者が指摘するいくつかの点は、まず論理的前提として「制度としての洋楽式軍楽隊」伝承者である復興の中心人物、崔仁端の「正当性」。それに復興された大吹打が、現行では異なる2つの編成を持ち「二重の標準化」がなされていることなどである。質疑では18世紀末・19世紀初における画像史料との関連や、政治的な思惑についての問題点が指摘された。ただし、まだ不明な点が多いのも事実のようだ。配付資料に添えられた「人名一覧」には漢字と韓国語での読み方との併記があり、親切な心遣いであった。(瀬山徹)

「『魏氏楽譜』の解説について」

楊桂香

17世紀以降に日本に伝えられた「明清楽」と総称される中国音楽のうち「明楽」を取り上げた研究。現存する明楽の代表的文献『魏氏楽譜』(1768)における工尺譜の表記、および漢字による歌詞の発音を解説することにより、日本における明楽の実態を考察しようとするものである。発表は林謙三の先行研究を丹念に検証し、その不足する点に言及。さらに『明楽唱號』という明楽楽譜をも参照して、これまで不明とされてきた舞譜や楽曲の存在の可能性についても述べた。注目されたのは、『魏氏楽譜』におけるカタカナによる歌詞の考察である。発表者はこのカタカナの読み方を伝来の経路から中国福建省に求め、『禅林課誦』(1661)をもとに黄檗宗声明との比較照合を試み、いくつかの発音の類似を指摘。この梵唄教典を研究することで、明楽歌詞のより正確な発音に迫れるとの見解を示した。中国語の発音については質疑でも取り上げられ、発表者の丁寧な対応があった。今後の展開が期待される。(瀬山徹)

パネルディスカッション「没後20年、小泉文夫の再発見」

まず、「小泉文夫の再発見」というタイトルについてだが、小泉を「過去の人」と見ているように感じられるのは、私だけの思い過ごしだろうか。

ともあれ、沖縄・奄美の研究者(最近ではポピュラー音楽の研究が顕著)である久万田晋氏、インドを中心にしての民族音楽学者(やはりポピュラー研究に力を入れている)の井上貴子氏、東大で小泉の講義を聞き、最近『J-POP 進化論』を出版した佐藤良明氏の3人をパネリストに迎えてのシンポジウムについての小レポートを試みよう。

最初に司会者でもある久万田氏が、小泉を讃美するのではなく、学問の対象として取り上げたいとの前置きの後で、小

泉の業績を次の3つにまとめた。1.研究者として。2.音楽教育への提言。3.メディアや一般大衆への影響。(詳細は大会パンフレット22頁参照)

その上で、久万田氏は小泉の最も重要な「テトラコルドによる音階論」は必ずしも独創的ではなく、また実際の音楽に沿うよりは理念的なものであり、日本全国を均質的に扱っていると指摘し、また、わらべうたや民謡を日本音楽の基礎と考えて、民謡のテトラコルド(又は音階)でうたわれている、わらべうたから音楽教育を始めるべきという小泉の提言に対し、むしろ律や律の変種の方が日本音楽の古層なのではないかと述べた。

井上貴子氏は小泉によって西洋古典音楽の呪縛から抜け出せたこと、すべての民族には固有の音楽があり、いずれも価値があるのだということ、必ず現地へ赴いて調査し紹介する姿勢、バイミュージカリティを実践し、ガムラン、シタール、カヤグムの実技を導入したこと、社会構造との関連で音楽について語ったことなどを小泉の特徴として挙げた上で(必ずしも肯定的ではないのだが)各地へのフィールドワークが短期間であり、対象に対しての誤解も少くないし、そこで蒐集(不適切な言い方だと筆者は思うが)した音楽が、その地の音楽文化の中でどういう位置にあるのか疑問であること、また文化相対主義をとっておきながら単純な社会構造と複雑な社会構造をヒエラルキー化し、結果として差別を温存させている・・・などの点を指摘した。

佐藤良明氏は小泉の個別の理論より、その思考のスタイルに魅力があったと述べ、大変に明解な次のような教育論を展開した。ある理論というのは、それが直接対象としている題材に関する理論であると共に、より根底的、かつ抽象的なレベルで世界観とか人間観とかの表明にもなっている。そして学問するとは何することかという例を理論づくりによって示すのだと思う。そして示された方は、その例にならって論の内実というよりは、むしろ論の形を真似て別の問題にアプローチしてみる。これが教育というプロセスで行われる伝達なのではないか。その教育及び継承というのは当然境界を越えて行なわれるわけで、そのことが教育の重要な点なのだと。同感である。大いに愉快だ。続いてJ-POP論の一端を熱っぽく語ったが、紙面の都合でカットせざるを得ない。フロアとのやり取りも省略する。

「小泉文夫の再発見」とは、様々な関係の仕方でも小泉学に出会った者共が、様々な、勝手なやり方でヴァリアンテをうたい続けていくことではないだろうか。(赤羽由規子)

会長就任の挨拶

今回はからずも会長の役をお引き受けすることになりました。

かねがね役員を仰せつかりながら、会務に怠慢であったわが身を振り返り忸怩たるものがありますが、これまで学会からうけた学恩にいささかでも報いることが出来ればという思いで、その職をお引き受けすることにいたしました。

昭和 36 年 7 月 2 日、私は初めて東洋音楽学会の大会 (第 12 回) に参加しました。会場は、今はもうなくなりましたが東京駅丸の内北口前にあった東京工業倶楽部でした。この大会の特集テーマが「語り物音楽」でしたので、私も「アイヌの語り物の音楽的特質」のテーマで発表させてもらいました。そのときはまだそれほどずれてはいなかった大学院の学生であった私は、すっかりあがってしまって、原稿の字も目に入ってこないという有様でした。なにせ、田邊尚雄、吉川英史、金田一春彦、岸辺成雄、町田嘉章、今井道郎、黒沢隆朝、林謙三等々、私などにとっては学問的に雲の上の存在の大先生達が目の前にいて、じっとこちらを見ているのですから、びびらないほうがおかしいくらいのもんでした。そのときの諸先生の講演や研究発表にも大きな感銘を受けました。この大会に参加したことによって私の民族音楽学研究的初心が形成されたと今でもおもっています。

その時から 40 年がたった現在、伝統音楽、民族音楽の研究対象の状況の劇的変化、研究領域の拡大、研究の方法論の革新、そして何よりも研究の意義が不明確になってきていることが、ときに研究の歩みを鈍くしているようにも見受けられます。われわれの研究が、世界の音楽学研究の新しい展開にどのような貢献が出来るのかという視点で、あらためて学会のあり方を見直すことが必要になってきていると思います。幸い、改革委員会のご努力によって、すでに改革案が提示されています。私の当面の役目は、この改革案を運用の問題とともに具体化することにあると考えています。会員皆様のご理解とご協力を切望する次第です。(谷本一之)

通常理事会・総会議決事項のお知らせ

2002 年 10 月 12 日 (土) に東京藝術大学音楽学部において第 66 回通常理事会が、翌 13 日 (日) に同大学にて第 33 回通常総会および臨時理事会が開催されました。以下にこれらの会議決事項のうち、特記すべきものをお知らせします。なお、通常総会の議決に関しては、後掲の総会議事録ならびに添付資料をご参照ください。

1) 平成 14 年度 (2002 年度) の事業計画の件

後掲の添付資料 6 (「平成 14 年度 (2002 年度) 事業計画」) の内容が総会で可決承認されました。これによって東日本、

西日本、沖縄の 3 支部制にもとづく新体制へ正式に移行することとなりました。

2) 新年度の役員、各種委員会の委員が以下の通り決定しました。

理事

[会長] 谷本一之 [副会長] 久保田敏子
[総務] 植村幸生、遠藤徹、蒲生美津子、高桑いづみ
[経理] 塚原康子、樋口昭
[機関誌] 久保田敏子、田井竜一、永原恵三、水野信男
[広報] 会報担当: 尾高暁子、高桑いづみ
ホームページ担当: 藤田隆則

[東日本支部長] 永原恵三

[西日本支部長] 月溪恒子

[沖縄支部長] 金城厚

参事

[本部] 総務担当: 金光真理子、斎藤完、高瀬澄子、鳥谷部輝彦、前島美保、松村智郁子; 機関誌担当: 井口はる菜
[東日本支部] 例会: 西村みどり、根津智美、福田裕美、藤波ゆかり、松本菜穂子、南摩衣子、森田都紀
[西日本支部] 例会: 今田健太郎、谷正人; 総務: 田鍬智志
[沖縄支部] 例会: 岡本陽子、長嶺亮子、外間正樹

東日本支部委員

[支部長・例会] 永原恵三

[例会] 遠藤徹、北岡朱実、竹内有一、丹羽幸江、樋口昭、増野亜子

[経理] 大貫紀子、塚原康子

[支部だより] 植村幸生、尾高暁子、鳥添貴美子、高桑いづみ

[ホームページ] 小塩さとみ、小日向英俊

西日本支部委員

[支部長・経理] 月溪恒子

[総務] 網干毅

[例会企画運営] 網干毅、上野正章、片桐功、久保田敏子、寺内直子、福岡正太、藤田隆則、水野信男

[支部だより] 上野正章、寺内直子、福岡正太、藤田隆則

[ホームページ] 上野正章、田井竜一

[支部活動コーディネーター] 寺内直子

沖縄支部委員

[支部長・経理] 金城厚

[例会] 梅田英春、大塚洋子、高橋美樹、比嘉悦子

[支部通信] 蒲生美津子

会報編集委員会

尾高暁子、金光真理子、斎藤完、高桑いづみ、高瀬澄子、鳥谷部輝彦、丹羽幸江、前島美保、松村智郁子

機関誌編集委員会

井口はる菜、久保田敏子、澤田篤子、田井竜一、永原恵三、水野信男

情報委員会

久万田晋、小日向英俊、田井竜一、中村美奈子、T.M. ホフマン

各支部所在地

[東日本支部]

〒112-8610 東京都文京区大塚 2 - 1 - 1

お茶の水女子大学文教育学部 永原研究室気付

TEL: 03-5978-5275 or 5279 (音楽助手室) FAX: 03-5978-5276

[西日本支部]

〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山 469

大阪芸術大学音楽学科 月溪研究室気付

E-mail: tukitani@osaka-geidai.ac.jp

FAX: 0721-93-7914 (月溪気付)

[沖縄支部]

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町 1-4

沖縄県立芸術大学音楽学学科室内

TEL: 098-882-5034 (カネシロ) 098-882-5504 (ガモウ)

E-mail: kanesiro@okigei.ac.jp gamo@okigei.ac.jp

FAX: 098-882-5033 (大学総務課)

会費納入について特段のお願い

10 月総会時の経理報告でもお伝えしましたが、昨年度の収支決算で約 40 万円の赤字が発生しました。その最大の要因として、会費収入の減少があげられます。学会費は、学会活動を支えるおおもとです。今年度はとくに学会の制度改正にともなう変化も予想されます。会員のみなさまには、どうぞ年度ごとの会費納入をお忘れなくお願い申し上げます。

2002 年度 (2002 年 9 月 1 日 ~ 2003 年 8 月 31 日) までの会費を未納の方に、請求書と振替用紙を同封いたしました (同封されていない場合は納入済みです)。請求書で未納金額をお確かめのうえ、早急に払い込みください。本状と行き違いに納入がありました場合は、ご容赦ください。

金城厚氏が沖縄研究奨励賞

(人文科学部門) を受賞

会員の金城厚氏に、沖縄協会 (小玉正任会長) より 2002 年度沖縄研究奨励賞が授与されました。授賞対象となった同氏の研究「沖縄音楽の構造 歌詞のリズムと楽式の理論化について」は、神歌から民謡、古典音楽へと、沖縄音楽全体に共通するリズムや楽式の基本的性格を解明し、文学研究にも大きく貢献する、との評価を受けました。

月溪恒子氏に、

第 14 回小泉文夫音楽賞授賞決定

会員の月溪恒子氏に第 14 回小泉文夫音楽賞の授与が決定しました。授賞理由は「尺八音楽に関する卓越した貢献に対して」です。授賞式は 2003 年 4 月 14 日 (月) に東京の市谷ハウスで行なわれます。

第 20 回田邊賞アンケートのお願い

第 20 回田邊賞は、下記の要領で選考・授与されます。その選考対象となる会員の業績について、皆様からの情報を募集致します。会員各位のご協力をお願い致します。

- (1) 選考委員：蒲生郷昭 (委員長)、草野妙子、小林責、谷本一之、樋口昭以上 5 名
- (2) 対象期間：2002 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日
- (3) アンケート締切り：2003 年 2 月 10 日必着
- (4) アンケート記入事項：著者名、著書名、発行年月日、発行所名、なお、論文の場合は以上のほか、掲載誌名、巻次、編集者名、論文頁数を記入してください。
- (5) アンケート送り先：〒110-0001 東京都台東区谷中 5 - 9 - 25 第 2 八光ハウス 201 号室 (社) 東洋音楽学会 第 20 回田邊尚雄賞選考委員会

会員異動

名簿記載事項の訂正・変更・追加

(2002 年 8 月 ~ 12 月、訂正箇所は下線部)

- 『平成 13 年度浜松市楽器博物館年報』
『浜松市楽器博物館だより』 No.28,29
浜松市楽器博物館
- 『ぎふ民俗音楽』第 55,56 号 岐阜県民俗音楽学会
『古管尺八の楽器学』志村哲著 出版芸術社
大阪芸術大学芸術研究所
- 『中島雅楽之都先生略伝(十)』吉田倫子著
『楽道』8,9,10,11月号 正派邦楽会
『アジアセンターニュース』No.21
国際交流基金アジアセンター
- 『MLAJ Newsletter』vol.23 No.1 音楽図書館協議会
『白い国の詩』8,9,10,11月号 東北電力(株)地域交流部
『月刊みんぱく』8,9,10,11月号 国立民族学博物館
『日本音楽学会会報』第 56 号
『音楽学』第 48 巻 1 号 日本音楽学会
『北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 7
「久保寺逸彦文庫 音声・映像資料目録」』
『ボン カンピソシ』8 (民具)
北海道立アイヌ民族文化研究センター
『猿田彦大神フォーラム年報 あらはれ』第 5 号
猿田彦大神フォーラム / 猿田彦神社

新刊書籍

- 『イラストで見る 篠笛ワークショップ やさしい篠笛の基礎』村山二朗著、音楽之友社、¥2,200
『イラン映画をみに行こう』ブルース・インターアクションズ、¥1,800
『インド輪廻に生きる 大沐浴祭』白石凌海著、明石書店、¥2,400
『梅若実日記 第 4 巻 明治 16 年～明治 23 年』梅若実著、八木書店、¥12,000
『江戸人と歌舞伎 なぜ人々は夢中になったのか』田口章子監修、青春出版社、¥667
『NHK 趣味悠々 和の楽しみ 本條秀太郎の三味線ちんちり連』NHK 出版編、¥1,000
『えんや! 曳山が見た唐津』金丸弘美著、無明舎出版、¥1,600
『おとなと子どものための即興音楽ゲーム』リリ・フリーデマン著、音楽之友社、¥1,600
『音の力 ストリートをとりもどせ』DeMusik Inter. 編、インパクト出版会、¥2,500
『おもしろ日本音楽の楽しみ方』釣谷真弓著、東京堂出版、¥2,200
『音楽・芸能賞事典 1996-2001』日外アソシエーツ株式会社

住所・所属等に変更ありましたら事務局までご連絡
ください。(機関誌別冊会員名簿とじ込みの変更届用
はがき、またはファクス、E-mail 等でも結構です)

改姓・改名のお届けには、ご希望の表記法をお書き添
えください。(複数表記される場合、どちらを主な表
記にするのか等)

事務局に登録はされても、公表を希望されない情報等
がある場合には、その旨明記してください。

図書・資料等の受贈

(2002 年 8 月～12 月、到着順)

は寄贈者(発行者と同一の場合は省略)

編集、日外アソシエーツ、¥16,000

『音楽史の形成とメディア』大崎滋生著、平凡社、¥3,000

『鹿児島島の湊と薩南諸島』街道の日本史55、松下志朗・下野敏見編、¥2,500

『楽器の物理学』N.H.フレッチャー、T.D.ロッシング/著 岸憲史、久保田秀美、吉川茂/訳、シュプリンガー・フェアラーク東京、¥6,500

『歌舞伎 研究と批評 29』歌舞伎学会誌、歌舞伎学会編集、雄山閣、¥2,330

『歌舞伎十八番』十二代目市川團十郎著、服部幸雄解説、小川知子写真、河出書房新社、¥4,800

『歌舞伎浄瑠璃稀本集成』演劇研究会編、八木書店、¥38,000(上下巻二冊組揃)

『歌舞伎人名事典』(新訂増補)野島寿三郎編、日外アソシエーツ、¥16,000

『歌舞伎と江戸文化』(重版)津田類著、ペリかん社、¥2,800

『歌舞伎入門』古井戸秀夫著、岩波ジュニア新書、¥780

『歌舞伎の名セリフ 粋で緋背なニッポン語』中村勘太郎著、光文社、¥800

『歌舞伎文化の享受と展開・観客と劇場の内外』神楽岡幼子著、八木書店、¥12,000

『歌舞伎役者の裏と表 歌舞伎は裏舞台のほうがおもしろい』綾瀬吾郎著、碧天舎、¥1,000

『韓国の巫(シャーマニズム)』趙興胤著、彩流社、¥2,000

『狂言のことだま』山本東次郎著、玉川大学出版部、¥2,000

『近世村落と現代民俗』日本歴史民俗叢書、福田アジオ著、¥6,400

『暮らしのなかの技術と芸能 中国江西省と韓国鬱陵島』神奈川大学日本常民文化研究所編、平凡社、¥3,000

『芸づくし忠臣蔵』関容子著、文春文庫、¥657

『現代の日本音楽 9 新実徳英複合媒体資料』日本芸術文化振興会監修・編集、春秋社、¥6,000

『子ども舞台芸術ガイド 2003』子ども舞台芸術ガイド編集委員会編集、芸団協出版部 / 丸善(株)出版事業部、¥1,000

『実験音楽室 音、楽器の仕組みがわかる総合学習』繁下和雄著、音楽之友社、¥1,600

『ジブシー 民族の歴史と文化』アンガス・フレーザー著、平凡社、¥3,800

『三味線の美学と芸大邦楽科誕生秘話』(普及版)吉川英史著、出版芸術社、¥4,800

『小学1年生の体・音・図工・総合の指導・大好きにする技 小学1年生の指導 準備万全!小事典(3)』TOSS 愛知教育サークル著、明治図書出版、¥2,060

『庶民信仰と伝承芸能 東北にみる民俗文化』菊地和博著、

岩田書院、¥6,900

『シルクロードの響き ペルシア・敦煌・正倉院』古代オリエンツ博物館編、柘植元一監、山川出版社、¥1,619

『新内節散歩 曲別解説』富士松松栄太夫著、ゴエスインフォームド、新宿書房、¥3,200

『西洋の音、日本の耳 近代日本文学と西洋音楽』中村洪介著、春秋社、¥5,000

『世界の楽器百科図鑑』M・W・マシューズ著、別宮貞徳監訳、東洋書林、¥13,000

『たいこころじい第21巻 特集 太鼓、もうひとつの舞台』浅野太鼓文化研究所、¥1,429

『楽しいボディパーカッション2 山ちゃんのリズムスクール』山田俊之著、音楽之友社、¥1,600

『魂のうたを追いかけて カタルーニャ、バスク、コルシカ』植野和子著、音楽之友社、¥1,700

『聴覚刺激小説案内 音楽家の読書ファイル』奥澤竹彦著、音楽之友社、¥2,200

『チンドンひとすじ70年』菊乃家丸語り、岩波書店、¥1,700

『伝説と俗信の世界』常光徹著、角川書店、¥686

『伝統文化の心 歳時・習俗に学ぶ』生方徹夫著、モラロジー研究所 / 広池学園事業部、¥1,400

『渡世民俗の精神 遊女・歌舞伎・医師・任侠・相撲渡世の近現代史』田原八郎著、燃焼社、¥2,000

『西馬音内盆踊り わがこころの原風景』小坂太郎著、影書房、¥2,800

『21世紀の音楽入門』石澤真紀夫、今井敏勝、加藤浩子、小沼純一、白石美雪、関根敏子、田村和紀夫、平田亜矢共著、教育芸術社、¥950

『200CD 邦楽 伝統とニューウェーブ』星川京児ほか編、立風書房、¥1900

『日本の太鼓、アジアの太鼓』山本宏子著、青弓社、¥1,600

『日本舞踊の心 1巻 春に花』西形節子著、演劇出版社、¥2,000

『日本文化と能・狂言』坂井孝一著、川崎市生涯学習振興事業団かわさき市民アカデミー出版部 / シーエーピー出版、¥500

『日本文化 モダン・ラブソディ』渡辺裕著、春秋社、¥2,200

『人形浄瑠璃の歴史』広瀬久也著、戎光祥出版、¥2,500

『熱帯の祭りと宴 カリブ海域音楽紀行』石橋純著、柘植書房新社、¥2,300

『能のドラマツルギー 友枝喜久夫仕舞百番日記』渡辺保著、角川文庫、¥762

『飲めや歌えやイスタンブール トルコの酒場で音楽修行』齋藤完著、音楽之友社、¥1,700

『端唄、俗曲、英語、教えます』明石寿々栄著、情報文化研究所、¥1,300

『ハワイの歴史と文化 悲劇と誇りのモザイクの中で』矢口祐人著、中公新書、¥840

『弾き物のさだめ 翻刻と校訂』蒲生郷昭ほか編、邦楽社、¥1,800

『ひのき屋の今日もたいこであそぼう』たいこ楽団ひのき屋著、サンパティック・カフェ、¥1,300

『文化の詩学 2』山口昌男著、岩波書店、¥1,100

『平家物語から浄瑠璃へ 敦盛説話の変容』佐谷真木人著、慶応義塾大学出版会、¥4,000

『松山御殿(マチャマウドウン)物語 明治・大正・昭和の松山御殿の記録』『松山御殿物語』刊行会編、尚弘子 / ポーダーインク、¥3,000

『松田修著作集 第2巻』松田修、右文書院、¥8,600

『祭りを旅する 1 関東・甲信越編』日之出出版、¥1,800

『祭りを旅する 2 近畿・中国編』日之出出版、¥1,800

『みかぐらうた語り艸』榊井孝四郎著、天理教道友社、¥1,200

『見てわかる日本 英語版 伝統・文化編』JTB、¥1,000

『柳田国男全集 29 昭和8年~昭和11年』柳田国男著、筑摩書房、¥7,400

『柳家花緑と落語へ行こう』柳家花緑著、旬報社、¥1,600

『横笛の魅力』(改訂新版) 實山左衛門著、出版芸術社、¥2,400

『落語大阪弁講座』小佐田定雄、平凡社、¥1,600

『落語『死神』の世界』西本晃二著、青蛙房、¥3,200

『落語的生活(らくごライフ)ことはじめ 大阪下町・昭和十年体験記』くまざわあかね著、平凡社、¥1,400

『落語の鑑賞 201』二村文人、中込重明著、新書館、¥1,800

『リサイクル楽器を楽しもう 1 身近な楽器にチャレンジ!!』上畑美佐江著、汐文社、¥2,000

『リサイクル楽器を楽しもう 2 音階作りにチャレンジ!!』上畑美佐江著、汐文社、¥2,000

『リサイクル楽器を楽しもう 3 吹く楽器にチャレンジ!!』上畑美佐江著、汐文社、¥2,000

『リサイクル楽器を楽しもう 4 民族楽器にチャレンジ!!』上畑美佐江著、汐文社、¥2,000

『琉球・アジアの民俗と歴史 国立歴史民俗博物館比嘉政夫教授退官記念論集』榕樹書林、¥15,000

『レコードマップ 2003』学陽書房編集部編、学陽書房、¥1,700

『ロシア演劇の魅力 ワンダーランド・ロシアは演劇の国(劇場案内付き)』堀江新二著、東洋書店、¥600

『和太鼓がわかる本』小野美枝子著、浅野太鼓文化研究所、

¥953

新発売視聴覚資料

新譜 CD

『うたはゆん』朝崎郁恵、ユニバーサルミュージック、¥2,913 [UCIZ-4011]

『越天楽のすべて』キングレコード、¥2,667 [KICG-3076]

『沖縄ソングス ハイサイ! 琉球ぬちぐすい』東芝 EMI、¥2,000 [COCJ-31966]

『小野衛の世界』小野衛、ソニークラシカル、¥13,000 [SICL-31~36 (CD6 枚組)]

『陰陽之占楽~安倍晴明式占術と雅楽』監修 高橋圭也、音楽監督 芝祐靖、演奏 伶楽舎、¥2,520 [COCQ-83617]

『カーニバル・スケッチ・オブ・トリニダード』V.A. VICTOR、¥2,600 [VICP-61963]

『義太夫「仮名手本忠臣蔵」大全』竹本綱大夫・竹澤弥七、キングレコード、¥14,286 [KICH-2391~7]

『義太夫選集』豊竹山城少掾、¥37,800 [VZCG-8212~23 (CD12 枚組)]

『「杵屋広三郎の世界」邦楽ライブ』杵屋広三郎 NAVI、¥3,658 [NACD-1475]

『京の通り名の歌 都の歳時記とわらべ歌』京都レコード、¥1,429 [MISH-0502]

『玄』観世榮夫、田島佳子、鳳聲晴雄、仙波宏祐、NAVI、¥3,658 [NACD-1470]

『魂~Kon』渋谷和生、日本コロムビア、¥2,000 [COCJ-31966]

『新課程用 中学校 音の社会科』全国小学校社会科研究協議会 監修、山川出版社、¥18,000

『新課程用 中学校 音の国語』全国小学校社会科研究協議会 監修、山川出版社、¥18,000

『新課程用 小学校 音の社会科』全国小学校社会科研究協議会 監修、山川出版社、¥18,000

『志ん生初出し 五代目古今亭志ん生』東宝ミュージック株式会社、¥14,000 (通販のみの発売)

『仁明天皇の雅楽』長谷川景光、フォンテック、¥2,677 [COCD-20032]

『STEEL LOVE / STEEL LOVE WORLD WIDE』VICTOR、¥2,600 [VICP-61962]

『世界を聴いた男、小泉文夫の民族音楽・映像集成 小泉文夫の遺産~民族音楽の礎』KING RECORDS、初回限定特別価格 ¥180,000 (1000 セット限定完売後は、通常価格 ¥200,000) [KICE-1~75 (CD71 枚+DVD4 枚+B5 サイズ別冊読本)]

『箏曲と朗読 源氏物語』宮城道雄(音楽・作曲) 山本安英(朗読)制作、日本音声保存発行、¥24,000 (CD12 枚組セッ

ト価格)CDの分売(税抜各¥2,000)も可能

『東京ダルマガエル』一噌幸弘、¥3,000 [VZCG-300]

『ハッピー・ソング』エクソダス・スティールオーケストラ、
VICTOR、¥2,381 [VICP-61964]

『YUKI 優喜』新田昌弘(津軽三味線) KING RECORDS、
¥2,571[KICS-980]

『六代目笑福亭松鶴全集』NHKサービスセンター、¥21,000
(通販のみの発売)

新刊CD-ROM

『江戸/東京 芸能地図大鑑』エーピーカンパニー発行、
¥15,800

編集後記

新体制の発足で、会報はホームページ担当とともに、新たに設置された広報セクションの一翼を担うこととなりました。編集委員会も新メンバーに改まり、今後は各支部との連携をとりながら、紙面の充実をはかりたいと考えています。会員の皆様からも忌憚のないご意見や情報をお寄せいただければ幸いです。

次号は5月20日の発行予定です。

会報編集委員会

理事：尾高暁子、高桑いづみ

委嘱委員：丹羽幸江(東日本支部委員)

参事：金光真理子、斎藤完、高瀬澄子、鳥谷部輝彦、
前島美保、松村智郁子

第 33 回通常総会議事録 (抄) ・添付書類

- 1 . 日時 : 平成 14 (2002) 年 10 月 13 日 (日) 13:00 ~ 14:30
- 2 . 場所 : 東京藝術大学音楽学部 5-109 教室
- 3 . 出席者 : 241 名 (委任状出席 173 名を含む)
[備考] 正会員 706 名、定足数 236 名。
- 4 . 議事事項と審議の経過および結果

定款第 25 条により柘植元一会長が議長となり、定足数を確認の上、開会を宣言した。次いで定款施行細則第 17 条により副議長選出の要請が行われ、田井竜一、屋山久美子両氏が選出された後、以下の議事を開始した。

第 1 号議案 役員改選の件

選挙管理委員会水野信男副委員長(久保田敏子委員長代理)が、「役員改選」[添付書類 1]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。

第 2 号議案 平成 13 (2001) 年度事業報告の件

植村幸生理事が「平成 13 (2001) 年度事業報告」[添付書類 2]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。

第 3 号議案 平成 13 (2001) 年度収支決算の件

塚原康子理事が「平成 13 (2001) 年度収支決算」[添付書類 3]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。

第 4 号議案 平成 14 (2002) 年 8 月 31 日現在貸借対照表・財産目録の件

塚原康子理事が「平成 14 (2002) 年 8 月 31 日現在貸借対照表・財産目録」[添付書類 4]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。また、議長(徳丸吉彦監事・山口修監事代理)が、「監査報告書」[添付書類 8]を朗読説明した。

第 5 号議案 平成 14 (2002) 年 8 月 31 日現在会員異動状況の件

植村幸生理事が「平成 14 (2002) 年 8 月 31 日現在会員異動状況」[添付書類 5]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。

第 6 号議案 平成 14 (2002) 年度事業計画の件

植村幸生理事が「平成 14 (2002) 年度事業計画」[添付書

類 6]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。

第 7 号議案 平成 14 (2002) 年度収支予算の件

塚原康子理事が「平成 14 (2002) 年度収支予算」[添付書類 7]について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、満場一致で可決承認された。

第 8 号議案 その他

議長が議場に対して発議を促したが、その他の議案は出されなかった。

(以下添付書類)

[添付書類 1]

役員選出資料

1. 2002 年度役員選挙 開票結果

投票締切日 9 月 7 日 (土)

開票日時 9 月 9 日 (月) 午後 2 時

開票場所 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター合同研究室 1

(1) 監事・理事選挙

有権者数 (2002 年 8 月 1 日現在) 694 名

被選挙権停止者数 8 名

被選挙権休止者数 3 名

投票者数 149 名 (投票率 21.5 %)

1) 監事

総票数 298 票 無効票数 2 票 有効票数 296 票

(うち白票 46)

順位	得票数	氏名
1	46	徳丸吉彦
2	18	小島美子
3	14	竹内道敬
4	11	月溪恒子
5	10	小柴はるみ
6	9	福島和夫
7	7	草野妙子
7	7	谷本一之

(6 票以下省略)

2) 理事

総票数 1192 票 無効票数 0 票 有効票数 1192 票 (うち

白票 110)			9	15	遠藤 徹
順位	得票数	氏名	9	15	小日向英俊
1	52	塚原康子	11	14	尾高暁子
2	49	久保田 敏子	12	13	小柴はるみ
3	44	植村幸生	13	12	草野妙子
4	36	徳丸吉彦	14	11	岡崎淑子
5	33	谷本一之	14	11	小島美子
5	33	月溪恒子	14	11	竹内道敬
7	31	蒲生 美津子	14	11	谷垣内和子
8	30	金城 厚	18	9	谷本一之
9	27	水野信男	18	9	福島和夫
10	23	田井竜一	20	8	飯島一彦
11	22	永原恵三	20	8	竹内有一
12	21	大谷 紀美子			(7票以下省略)
13	20	小島美子			
14	18	大貫紀子	2)西日本支部 支部委員		
14	18	寺田吉孝	有権者数(2002年8月1日現在) 240名		
16	17	草野妙子	被選挙権停止者数 2名		
16	17	樋口 昭	被選挙権休止者数 0名		
18	16	岡崎淑子	投票者数 51名(投票率 21.3%)		
18	16	小柴 はるみ	総票数 306票 無効票数 0票 有効票数 306票		
18	16	龍村 あや子	(うち白票 8)		
18	16	スティーヴン・			

		G・ネルソン	順位	得票数	氏名
(15票以下省略)			1	16	田井竜一
			2	15	久保田敏子
(2)支部委員選挙			2	15	月溪恒子
1)東日本支部 支部委員			2	15	スティーヴン・
有権者数(2002年8月1日現在)	394名				G・ネルソン
被選挙権停止者数	5名		2	15	福岡正太
被選挙権休止者数	3名		6	13	寺内直子
投票者数 79名(投票率 20.0%)			6	13	藤田隆則
総票数 632票 無効票数 1票 有効票数 631票(うち白票 86)			8	10	水野信男
			9	9	高橋美都
			10	8	大谷紀美子

順位	得票数	氏名	順位	得票数	氏名
1	27	塚原康子	10	8	寺田吉孝
2	22	高桑いづみ	10	8	中川 真
3	19	植村幸生	14	7	井野辺 潔
4	18	小塩さとみ	14	7	龍村あや子
4	18	徳丸吉彦	16	6	小野功龍
4	18	永原恵三	16	6	志村 哲
4	18	樋口 昭	16	6	山田陽一
8	17	大貫紀子	19	5	片桐 功

19 5 宮崎まゆみ
(4 票以下省略)

3) 沖縄支部 支部委員

有権者数(2002 年 8 月 1 日現在) 23 名
被選挙権停止者数 1 名
被選挙権休止者数 0 名
投票者数 6 名(投票率 26.0 %)
総票数 18 票 無効票数 0 票 有効票数 18 票(うち白票 0)

順位	得票数	氏名
1	5	金城 厚
2	4	大塚 祥子
3	3	比嘉悦子
4	2	梅田英春
4	2	蒲生美津子
4	2	杉本信夫

2. 選考過程

(1) 監事・理事選挙

理事・監事の選出については、定款施行細則第 8 条から第 13 条までの各条に準拠し、選挙管理委員会の定める選出要項に基づいておこなわれた。

定款施行細則第 11 条に定めるところにより、理事および監事として重複して選ばれた徳丸吉彦については、監事として選ばれた者と認めた。その結果、理事については、永原恵三が繰上げ当選となった。

選挙管理委員会からの開票結果の報告を受けた会長が、徳丸吉彦、小島美子に当選の通知をしたところ、小島美子から辞退の申し出があった。やむをえない理由と思われたので、次点の竹内道敬を繰上げ当選とした。

また、会長は、各当選者に当選の通知をすると共に、定款施行細則第 8 条に基づき、理事当選者 10 名にたいして、他の 5 名を合議する会議を招集した。その合議の結果、遠藤 徹、尾高暁子、高桑いづみ、樋口 昭、藤田隆則の 5 名が理事として推薦された。

(2) 支部委員選挙

支部委員の選出については、支部規定第 6 条に準拠し、選挙管理委員会の定める選出要項に基づいておこなわれた。

1) 東日本支部 支部委員

支部規定第 6 条第 7 項に定めるところにより、支部委員および監事として重複して選ばれた徳丸吉彦については、監事として選ばれた者と認めた。その結果、支部委員については、尾高暁子が繰上げ当選となった。

また、選挙管理委員会からの開票結果の報告を受けた支部長(会長代行)は、各当選者に当選の通知をすると共に、支部規定第 6 条第 4 項に基づき、支部委員当選者 10 名にたいして、他の 5 名を合議する会議を招集した。その合議の結果、北岡朱実、島添貴美子、竹内有一、丹羽幸江、増野亜子の 5 名が支部委員として推薦された。

2) 西日本支部 支部委員

選挙管理委員会からの開票結果の報告を受けた支部長(関西支部長代行)が、各当選者に当選の通知をしたところ、ステイヴン・G・ネルソンから住所の変更により支部を変更する旨の申し出があった。支部長は、当選者にたいしてこの件の合議を依頼し、その合議の結果、次点の水野信男を繰上げ当選とした。

また、支部長は、支部規定第 6 条第 4 項に基づき、支部委員当選者 7 名にたいして、他の 3 名を合議する会議を招集した。その合議の結果、網干 毅、上野正章、片桐 功の 3 名が支部委員として推薦された。

3) 沖縄支部 支部委員

選出要項に定めるところにより、順位 4 位の者 3 名については抽選をおこない、蒲生美津子を第 4 位に、杉本信夫を次点にそれぞれ決定した。

選挙管理委員会からの開票結果の報告を受けた支部長は、各当選者に当選の通知をすると共に、支部規定第 6 条第 4 項に基づき、支部委員当選者 4 名にたいして、他の 1 名を合議する会議を招集した。その合議の結果、梅田英春が支部委員として推薦された。

3. 2002 年度役員選挙 選出結果

(1) 監事・理事

1) 監事 2 名	竹内道敬	徳丸吉彦
2) 理事 15 名		
	植村幸生	谷本一之
	遠藤 徹	塚原康子
	尾高暁子	月溪恒子
	金城 厚	永原恵三
	蒲生美津子	樋口 昭
	久保田敏子	藤田隆則
	田井竜一	水野信男
	高桑いづみ	

(2) 支部委員

1) 東日本支部 支部委員 15 名		
	植村幸生	高桑いづみ

遠藤 徹 竹内有一
大貫紀子 塚原康子
小塩 さとみ 永原恵三
尾高暁子 丹羽幸江
北岡朱実 樋口 昭
小日向 英俊 増野亜子
島添 貴美子

2) 西日本支部 支部委員 10 名

網干 毅 月溪恒子
上野正章 寺内直子
片桐 功 福岡正太
久保田 敏子 藤田隆則
田井竜一 水野信男

3) 沖縄支部 支部委員 5 名

梅田英春 大塚祥子
金城 厚 蒲生美津子
比嘉悦子

2002 年度選挙管理委員会

今田健太郎 久保田敏子(委員長) 鈴木由喜子 田井 竜一
藤田 隆則 水野 信男(副委員長) 山田智恵子

[添付書類 2]

平成 13 年度 (2001 年度) 事業報告

(自平成 13 年 9 月 1 日 至平成 14 年 8 月 31 日)

1. 事業の状況

[1] 研究発表会および学術講演会の開催(定款第 5 条 1)

(1) 公開講演会の実施(定款施行細則第 3 条 1)

・日時 2001 年 11 月 24 日
・会場 沖縄県立芸術大学
・課題 「異文化接触をめぐる歌と楽器の 3 つの問題」「ベトナム宮廷音楽の活性化と研究者の役割」

(2) 研究発表大会の実施(定款施行細則第 3 条 2)

・日時 2001 年 11 月 24 日-25 日
・会場 沖縄県立芸術大学
・発表件数 14 件

(3) 琉球芸能鑑賞会の実施

・日時 2001 年 11 月 23 日
・会場 沖縄県立芸術大学
・備考 第 4 回中日比較音楽研究国際学術会議と共催

(4) 次年度大会の準備

・日時 2002 年 10 月 12 日-13 日
・会場 東京藝術大学音楽学部

(5) 定例研究会

本部(定款施行細則第 3 条 3)

・回数 8 回(第 442 回~第 449 回、10・12・2・3・4・5・6・7 月)

・会場 東京藝術大学音楽学部、お茶の水女子大学、上野学園日本音楽資料室

・内容 研究発表、シンポジウム、報告、卒業論文・修士論文発表

・備考 12・5 月の定例研究会は、日本音楽学会関東支部と合同

関西支部(支部規約第 2 条)

・回数 5 回(第 205 回~第 209 回、9・10・2・4・6 月)

・会場 京都市立芸術大学、大阪大学、神戸大学、国立民族学博物館

・内容 研究発表、特別講演、講演、卒業論文・修士論文・博士論文発表、展示見学

・備考 9 月の定例研究会は、日本音楽学会関西支部と合同

沖縄支部(支部規約第 2 条)

・回数 2 回(第 33 回~第 34 回、5・7 月)

・会場 沖縄県立芸術大学

・内容 卒業論文・修士論文発表、研究発表、講演

[2] 学会誌および学術図書の刊行(定款第 5 条 2)

(6) 機関誌『東洋音楽研究』の刊行(定款第 5 条 2)

第 67 号の編集・刊行

・内容 会員の論文、研究ノート、調査報告、通信、書評・視聴覚資料評・書籍紹介、大会・研究会記録、田邊尚雄賞記録

(7) 会報の刊行

『東洋音楽学会会報』

・第 53 号(2001 年 9 月 10 日) 第 54 号(2002 年 1 月 10 日) 第 55 号(2002 年 5 月 10 日)

・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、大会レポート、定例研究会報告、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

『支部だより』

・第 42 号(2002 年 1 月 11 日) 第 43 号(2002 年 3 月 20 日)、第 44 号(2002 年 8 月 25 日)

・内容 関西支部定例研究会の開催案内、定例研究会記録、支部会員への諸通知、その他

『沖縄支部通信』

・発行なし

(8) 『東洋音楽学会沖縄地区通信・沖縄支部通信集』の発行

・発行日 2001 年 11 月 23 日

[3] 関連学協会との連絡および協力(定款第 5 条 3)

(9) 日本学術会議への協力

会員山口修氏を芸術学研究連絡委員会委員として派遣
(10)ユネスコ国際音楽評議会 (I M C) 日本国内委員会への参加

会員柘植元一氏を理事として派遣

(11)音楽文献目録委員会への参加

会員高桑いづみ、梅田英春、蒲生郷昭の 3 氏を委員として派遣 (2002 年 3 月 31 日まで)

会員奥山けい子、田中多佳子、蒲生郷昭の 3 氏を委員として派遣 (2002 年 4 月 1 日より)

(12)国際伝統音楽学会 (I C T M) への協力

日本国内委員会として加盟

[4] 研究の奨励および研究業績の表彰 (定款第 5 条 4)

(13)「田邊尚雄賞」

第 18 回田邊尚雄賞の授賞

・日時 2001 年 11 月 24 日

・受賞者および授賞対象 谷本一之氏『アイヌ絵を聴く』(北海道大学図書刊行会 2000 年 6 月発行) 磯水絵氏『説話と音楽伝承』(和泉書院 2000 年 12 月発行)

・賞金 各 50000 円

第 19 回田邊尚雄賞の選考と発表

・受賞者および授賞対象 青柳隆志氏『日本朗詠史年表篇』

(笠間書院 2001 年 2 月発行)

[5] 研究および調査 (定款第 5 条 5)

(14)国内または国外における学術調査および研究

とくになし

[6] その他の目的を達成するために必要な事項 (定款第 5 条 6)

(15)東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

(「 2 処務の概要」以下は省略)

[添付書類 6]

平成 14 年度 (2002 年度) 事業計画

(自平成 14 年 9 月 1 日 至平成 15 年 8 月 31 日)

[1] 研究発表会および学術講演会の開催 (定款第 5 条 1)

(1)公開講演会の実施 (定款施行細則第 3 条 1)

・日時 2002 年 10 月 12 日

・会場 東京藝術大学音楽学部

・課題 「近代日本における美術と音楽の生成」

(2)研究発表大会の実施 (定款施行細則第 3 条 2)

・日時 2002 年 10 月 13 日

・会場 東京藝術大学音楽学部

・発表件数 10 件

(3)次年度大会の準備

・未定

(4)定例研究会 (定款施行細則第 3 条 3)

東日本支部

・回数 7 回 (12・2・3・4・5・6・7 月)

・会場 東京藝術大学音楽学部、上野学園日本音楽資料室、

その他

・内容 研究発表、調査報告、講演、卒業論文・修士論文発表、その他

・備考 12・5 月の定例研究会は、日本音楽学会関東支部と合同

西日本支部

・回数 5 回 (9・11・2・4・6 月)

・会場 大阪大学、大阪音楽大学、その他

・内容 研究発表、講演、シンポジウム、卒業論文・修士論文・博士論文発表、その他

・備考 11 月の定例研究会は、日本音楽学会関西支部と合同

沖縄支部

・回数 3 回 (11・2・6 月)

・会場 沖縄県立芸術大学

・内容 卒業論文・修士論文発表、研究発表、講演、その他

[2] 学会誌および学術図書の刊行 (定款第 5 条 2)

(5)機関誌『東洋音楽研究』の刊行 (定款第 5 条 2)

第 68 号の編集・刊行

・内容 会員の論文、研究ノート、調査報告、研究動向、通信、書評・視聴覚資料評・書籍紹介、大会・研究会記録、田邊尚雄賞記録

(6)会報の刊行

『東洋音楽学会会報』年 3 回 (9 月、1 月、5 月)

・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、大会レポート、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

『東日本支部だより』年 2 回

・内容 東日本支部定例研究会の開催案内、定例研究会記録、支部会員への諸通知、その他

『西日本支部だより』年 3 回

・内容 西日本支部定例研究会の開催案内、定例研究会記録、支部会員への諸通知、その他

『沖縄支部通信』年 3 回

・内容 例会案内、例会発表要旨と質疑応答記録、その他

[3] 関連学協会との連絡および協力 (定款第 5 条 3)

(7)日本学術会議への協力

会員 1 名を芸術学研究連絡委員会委員として派遣

(8)ユネスコ国際音楽評議会 (I M C) 日本国内委員会への参加

会員 1 名を理事として派遣

(9)音楽文献目録委員会への参加

会員 3 名を委員として派遣

(10)国際伝統音楽学会（ICTM）への協力

日本国内委員会として加盟

〔 4 〕 研究の奨励および研究業績の表彰（定款第 5 条 4）

(11)「田邊尚雄賞」

第 19 回田邊尚雄賞の授賞

・日時 2002 年 10 月 12 日

・受賞者および受賞対象 青柳隆志氏『日本朗詠史年表篇』

（笠間書院 2001 年 2 月発行）

第 19 回田邊尚雄賞の選考と発表

（2003 年 4 月予定）

〔 5 〕 研究および調査（定款第 5 条 5）

(12)国内または国外における学術調査および研究

とくになし

〔 6 〕 その他目的を達成するために必要な事項（定款第 5 条

6）

(13)東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

[添付書類 8]

社団法人 東洋音楽学会

会長 柘植 元一 殿

監査報告書

社団法人東洋音楽学会の平成 13 年度財産の状況ならびに、業務執行の状況を監査しましたが、健全に運営されていることを認めます。

平成 14 年 9 月 20 日

監事 徳丸 吉彦

監事 山口 修

